

VERTEX 3D

CBEの高級バージョン、Vertex-3Dの簡単なお紹介をしておきます。

このサイトは先に紹介したTekより長い2インチのサイバーを持ち調整幅が大きくなっています。

ご紹介の物は3D仕様の物で、ターゲット仕様の物は3インチの調整幅となっています。

今回は50メートル目に特化し、少しでもローリングをカバーすることを指向したためサイトバーがより短めな3Dモデルをサンプル購入いたしました。



Tekと異なり、Vertexはオーソドックスなサイトブロックのスライド方式を採用しています。

過去のCBEのターゲットサイトとの大きな違いは、サイトブロックが取り外し可能となったことです。

ブロック取り外しにはスターレンチのT20が必要です。

またこのモデルには、Tekではオプションだった、3RD AXIS ATTACHMENT が標準装備となっております。

現在、TekおよびVertex 3Dを各1台在庫しておりいつでも出荷可能です。

サイトバーの長い(3インチ)のVertex ターゲット仕様をご希望の方は取り寄せ可能ですのでご連絡ください。

2014.9.15

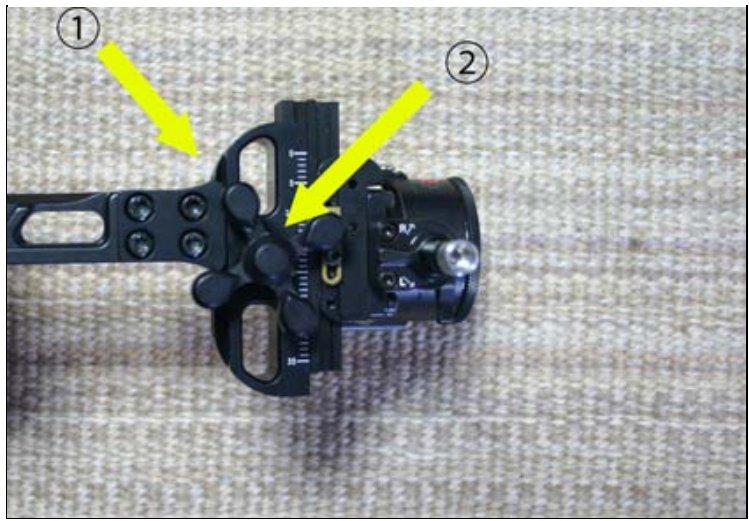
Tek-Target adjustable Sight

CBEのTek-Target adjustable Sightの簡単なお紹介をします。

このサイトは本来3D用に設計されたものでサイトバーはミニマムにできています。

サイトバーの質量が小さい分、エクステンションバーにかかる負荷が小さいためかバーは今までCBEのサイトにはなかった軽減穴が開いています。

その代りエクステンションバーはやや肉厚になり、サイトマウントもそれに応じてサイズが変更されました。



そのため旧型のCBEサイト、例えばLight Targetなどは新しいマウントにセットできますが、Tekサイトを旧型のマウントにはセットできません。

さて、このサイトサイバーが短くなったため、W.Aの1440ラウンドのように70・90メートルの出のフォローはほとんど無理ですが、W.AのCP50メートルラウンド、条件にもよりますがフィールド競技には十分だと思います。

サイトの上下調整は、サイトバーそのものを上下調整、スコープマウントを上下調整の2通りを組み合わせることで可能です。

サイトバーそのものの上下は上図の①の部分で行いエクステンションバーに4つあるねじ(スターレンチタイプ)のサイトバー寄りの2本を緩めて行えます。

そして、スコープは②の十字型のノブを回転させることで、サイトバーとスコープマウントが同時に上下スライドします。

CBE独特の直線的パーツ加工と精度の高さにより、パーツのゆるみの心配はほとんどないと思います。

W.AのCPラウンドを対象とされる方には、お勧めのサイトで価格も25,000円とサイトとしてはローコストでお買い得だと思います。

2014.9.12

現在のリファレンスセット
(W.A50メートル競技に特化して)

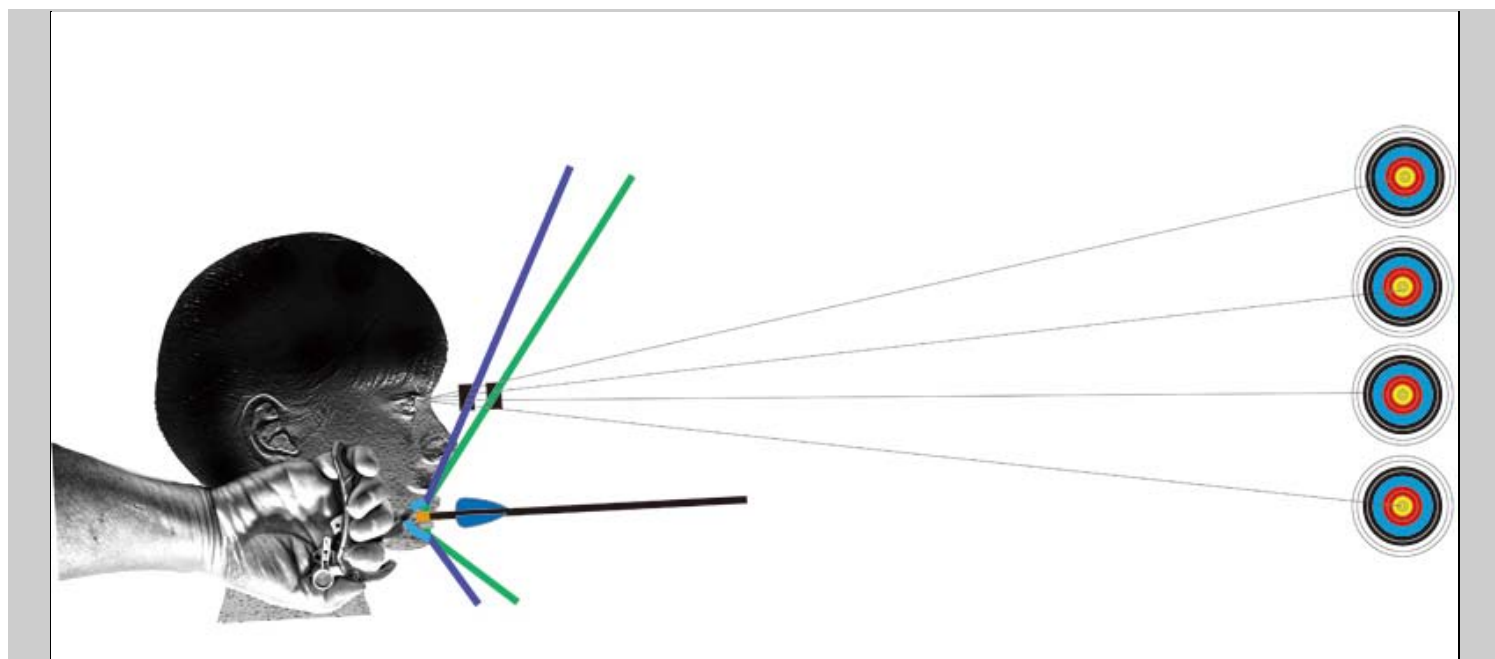


従来ルールでは使いにくい部分も多々あったコンパウンドボウですが、W.Aの最近のルール改訂で対応がかなり楽になってきました。

まずセットを50メートルに特化すればよくなり、用具の選択に余裕が出てきました。

以前にも言及しましたが、ゲット向きとはいいいがたかった軸間が短いショートボウがターゲット用としても使いやすくなりそのコンパクト性をフルに生かせる環境になったと考えています。

ということで、現在私が考えている、テストしているリファレンスボウのご紹介です。



リカーブボウの時代より、ショートボウ系が好みだった私(例えばBlack Widowは65インチボウだった)には、ターゲット向きといわれる軸間の長いロングボウは持ち運びも考えればあまり好きにはなれませんでした。

確かに、ピープを使用するCPにおいては30-90という距離のギャップで生じる、上図のような問題(過去記事をご参照ください)をクリアするためには、ピープを可能な限り目に近づける必要がありますロングボウを選択せざるをえませんでした。

しかし、50メートルのみに対応(18-30メートルでも十分)すればよくなり、ピープが目より遠くなるショートボウでも問題は発生しなくなりました。

このピープの位置問題は、後述しますが、私のように高齢になるとかなり深刻なのです。

ピープからの視野が上下にずれる問題はこれで解決したので、残りはもう一つの問題。ピボットを中心に発生するローリング(弓の左右の傾き)です。

ローリングはアローの発射方向に大きく影響を与える、不良運動でターゲットのヒット位置の横ブレを発生させます。

アローは弓の上部が傾いた方向に飛んでゆく(例えば右に傾けば右にヒット)ため弓の垂直保持に傾注する必要があります。

CPでは水準器の使用が認められていますが、エイミング中に泡の位置に神経を使い続けることは得策ではありません。

さて、ことローリングに関していえばロングボウのほうがショートタイプの物よりも有利です。

というのは質量とモーメントの問題で、ローリングが発生しにくいのです。

それもありターゲット用にはロングボウが使われてきたのです。

ではショートボウを使う場合どうすれば良いか？

私はスタビライザーとサイトを軽量化することにより対応しています。

以下はそれのご紹介。

先日、手配をかけてあったCBEのTek-Target adjustable Sightが到着しました。

このサイトはサイトバーを短くすることにより、サイト重量を軽減できる上強度も増しています。

短所はサイトバーが短いためサイトのチャート幅が広い方にはつらい部分もあるのですが、よほどのことがない限り、10-50メートルには十分です。(60-70-90も捨てがたい方には向きませんが)

サイトを軽いものに交換したため、ローリングに強くなってきたといえます。サイトはどうしてもハン



ドルの上部にセットされるためローリングを起こす原因のひとつなのです。

さて、サイトに関連しスコープなのですが、私は42mmという大口径の物を使用しています。

サイトのレンズは口径が小さいと、端のほうで視野にひずみが生じやすく、私の場合目の疲れを引き起こしやすいこと。
大きいレンズ径に比較して光量が少なくなるため、全体像が暗くなりこれも集中力の妨げになります。

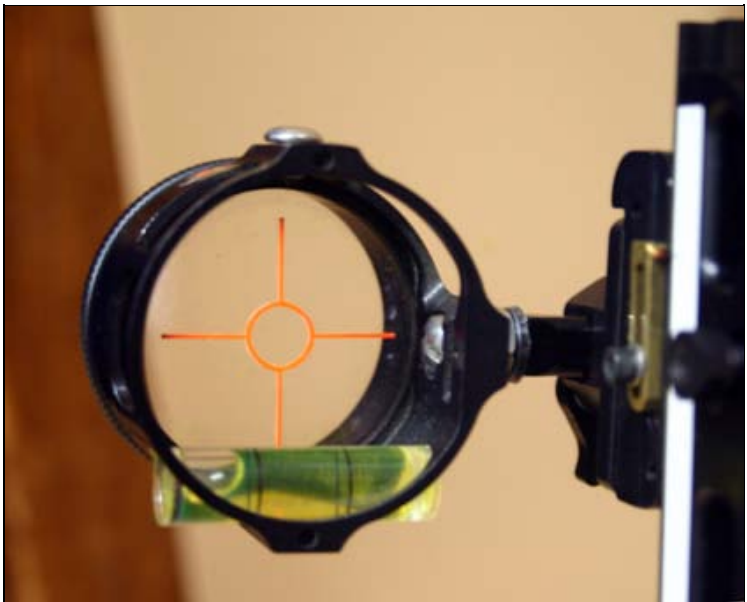
そんな理由で、私は長い間42mmという大口径レンズを使用してきたのですが欠点がひとつ。

それはスコープのハウジングが大きいいためサイトが下がる70や90メートルではヴェインがはースコープにヒットする可能性があることです。

しかし、今回のように50メートルに特化できれば、極端な例外を除き、その問題は解決されたといえます。

大口径レンズ万歳といたいところなのですが、これは私のケース。
人によっては、主としてメンタルな問題なのですが、視野が広がって全景が見えたと集中できないというアーチャーも存在するのです。

とまあ、この辺は好みの問題なのですが、私は明るさと目の疲れを軽減してくれる大口径を選択したということなのです。



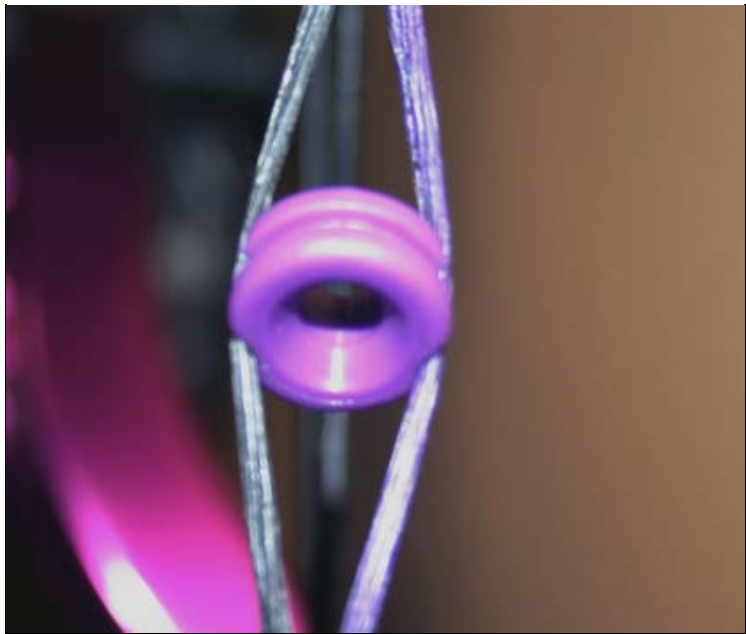
利目が近視・乱視・老眼である私にはファイバーピンのようなどっとサイトは眼のピントが合いにくい
ためリングを使用しています。
これも好みですが・・・

さて、スコープを使用するための必需品、ピープサイト。
これは様々なサイズものが存在しています。

ピープは主として、スコープレنزの焦点を合わせるために使用されるもので、スコープの倍率、スコープと目の距離に応じて口径を選ぶ必要があります。

一般的には倍率が高いレンズには小口径の物、低い場合には大口径の物がマッチするのですが、スコープと同様こちらでも口径による光量の問題は存在します。

もちろん、大口径のほうが光量が多くなります。



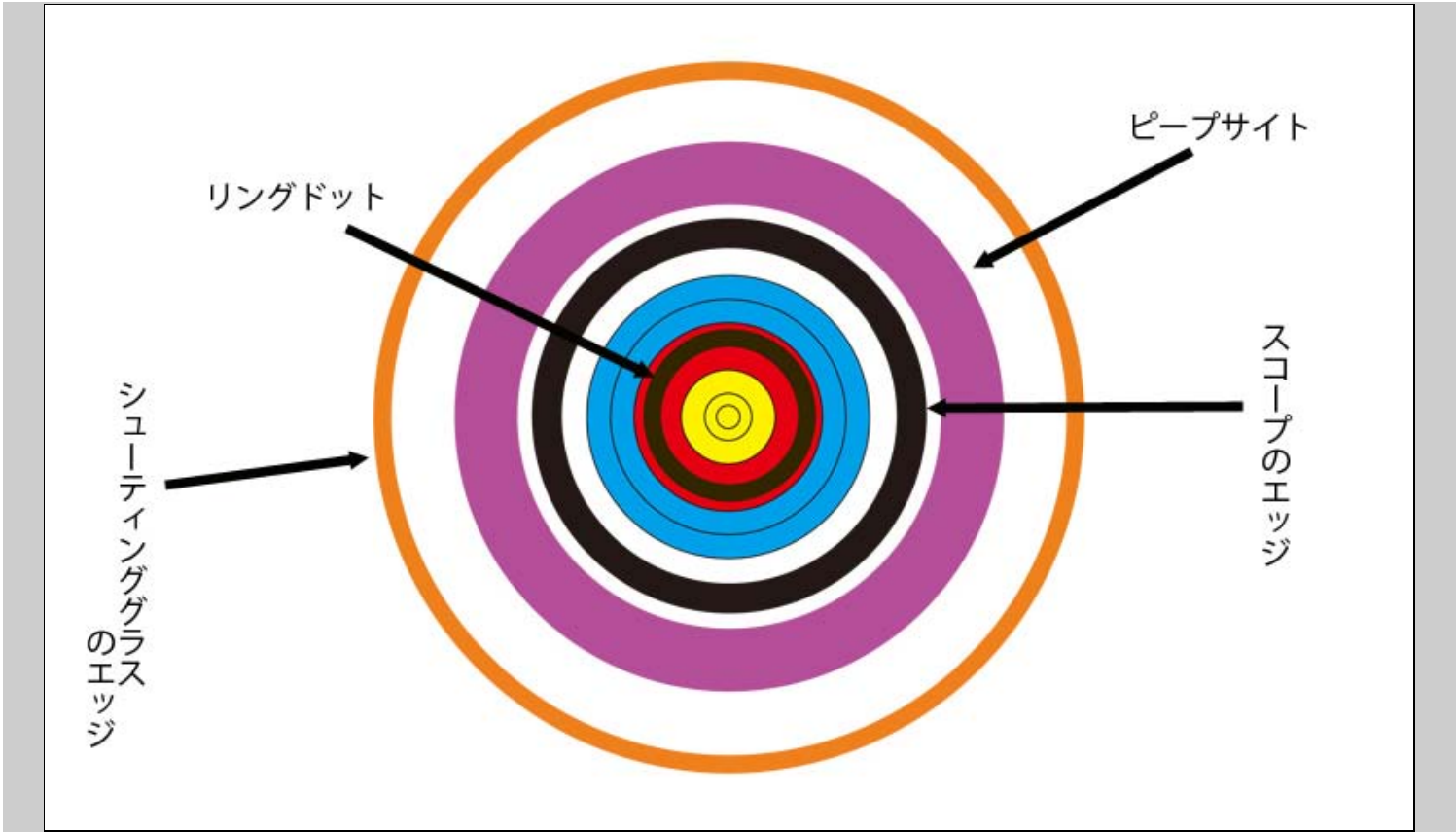
私の場合、スコープ倍率は4Xから2Xなので比較的大口径のピープが使用できるため視界はかなり明るくなります。

さて、ピープの口径の選び方ですが、レンズのマッチングによるピントの問題が最優先なのですがショートボウを使う場合、ピープは目から遠い距離に位置することになるので、ピントが合う範囲でなるべく大きいものの選択をお勧めします。

ところで、ピープが遠くにあると私のように近視・乱視・老眼が混在した(なおかつ30年近いドライアイ)でも目が疲れずにピープからサイト、的までがはっきり視認できるようになりました。

類似したお悩みを抱えている方にはお勧めのレイアウトです。

さて、大口径スコープ、大口径ピープ、そして目から遠いところにあるピープサイトを使用した結果私の視野は下図のようになっています。



的を中心に、スコープに貼付してあるリングドット、スコープのエッジ、ピープサイトの輪郭、そして私の場合、比較的レンズが小さいシューティンググラスのエッジを同心円上に直接配置できます。

という、そうなるように顔向け、ピープのサイズ、スコープのサイズ、リングドットのサイズなどを調整してあります。

ただし、このレイアウトで長距離をシュートしようとするとき、ピープサイト、シューティンググラスのエッジが上下にずれてしまい同心円は崩れてしまいます。

これは50メートルに特化したため可能になったレイアウトなのです。
尚、10-30メートルであればこの同心円をあまり崩さずにエイミングできることを確認してあります。

(注)
シューティンググラスのエッジ利用は厳密にはルールに抵触しかねない問題も含んでいます。
というのはルールでは弓にセットされた認められたパーツ以外をエイミングのヘルプに使用することは禁じられているからです。
眼鏡類、射撃用シューティンググラスはその使用を認められているのですが、例えば普通の眼鏡のレンズに傷やマークを付加することは禁止されています。

今回は、たまたま私が使っているレンズのサイズの関係でルール抵触ギリギリのメリットがあったのですが・・・



さて、ローリング対策、その2.

ハンドル上部にサイトという質量が付加されているため、ローリングが発生しやすくなっているのですが、過去から現在に至るまで様々な対応策が講じられてきました。

サイドロッドやカウンターバランスがそれに野ですが、ローリング対策にもっとも効果があるのはハンドルの最下部に取り付けられるカウンターウェイトです。

これが一番効果的なのは分かっているのですが、残念ながら私の愛機、Revengeにはハンドル形状の関係でカウンターホールが空いていません。

しかたなくサイトと反対側にウェイトを付加するオフセットサイドバーを取り付けたのですがこれだけ短いモデルだとちょっと不足気味です。

で結果的に採用したのが、写真の左右振り分けタイプ。
サイトの質量を考えれば左側のウェイトを右より増やしてもよいのですが質量のあるアクリルロッドを使っているためかそこまではやらずに済んでいます。

これはStokerizedの物ですが、Shrewd V Bar などでも同様のバランスレイアウトは可能です。

こちらは、Vバーと組み合わせてあるセンタースタビライザー。

20インチの重量級のアクリルロッドです。

センタースタビライザーは、ローリング対策にはあまり関係がありませんが、エイミングバランス、横風対策として重要な要素です。

近年、CPがグリップが前にあるデフレックスから後方グリップのレフレックスに変化してきました。

これはリムの効率の問題等もありますが一番大きいのがハンドルの強度問題。

ハンドルに折り曲げ負荷がかかりやすいデフレックスは安定性があるものの強度の関係でハンドルにある程度の厚さが必要となるためどうしても重くなります。
また、ハンドルへの負荷が大きいため寿命も短くなり

がちです。

一方、レフレックスハンドルは圧縮負荷なので構造体を薄くしやすくなりリムの動作を大きく取れるため軽量かつパワーがでます。

ということで近年ほとんどのモデルが軽いリフレックス(ストレートに近い)から極端なりフレックスになってきました。

愛機Revengeは極端なりフレックスの範疇のモデルで、バランスはスタビライザーがなくてもかなり前重心です。言い換えればバランスとして長いセンターロッドは必要なく、というかむしろモーメントの関係であまりがいものを使うと押手の方にかなりの負担が生じてしまいます。

最近のW.Aの試合を見ているとロングロッドにかなりのウェイトをつけたスタビライザーがはやっているのですが、横風対策を考えるとロッドは短めにしてウェイトを積んだほうが効率的なのではと考えています。

まあ、上記傾向は選手たちの好みと、バックアップスポンサーの関係もあるのでしょうか・・・

さて、最後にアローですが、W.Aる一では点数はタッチセーフなので、なるべく太いシャフトを使用したアローのほうが有利です。

しかし以前にもコメントしたように、太いアローはどうしても肉が薄くなるので耐久性に問題が出ます。

ということで現在は中庸をとって、バイターノック19-2がそのまま使えるシャフトサイズ、VAPではなくV-ForceやCarbon ForceのRadial X Weave をお勧めしています。ただ、これらはもっとも柔らかいスパインが前者で600、後者で520なので低ポンドの方や女性向とはいいい 固いものがあります。

尚、組み合わせるポイントですが、ずっと以前から高F.O.Cの物のほうが感触が良いため、現在180から250グレインといった過激な組み合わせでテストしています。

感触としては上々なのですが、耐久性やパラドックスの出方にある種の壁が存在するようなので引き続きテストをしています。



私のセットは横風対策として小口径で重量もありモーメントの関係も考慮して短めのロッドになっています。またね短めのロッドのほうが振動の揺り返しも小さいのでこのような組み合わせにしています。アーチャーの中にはシュートのインターバルで疲れないようにするためにスタビライザーを地面につけなくてはという方もいらっしゃいます。確かにそういう効果は否定しませんが、用途がずれているような気がします。ましても現在のようにシュート時間が短くなっているときに杖替わりの意味はないのでは？



上がフィールドポイント250グレイン+インサート12グレイン
下が180グレインPSポイント付きのV-forceです。

2014.9.9

CBEサイト到着

手配していたCBEサイトが到着しました。

到着したのは、上位モデルのVERTEX 3D(上)とTek-Target adjustable Sight(下)です。
どちらも従来のCBEサイトよりサイトバーが短めなもので、WAの50メートルラウンドを意識して取り寄せたもので
す。

価格はインボイスの関係等で未定ですが近々提示できると思います。

同時にCBE42mmスコープハウジングおよびレンズ(X4・X8)も入荷いたしました。



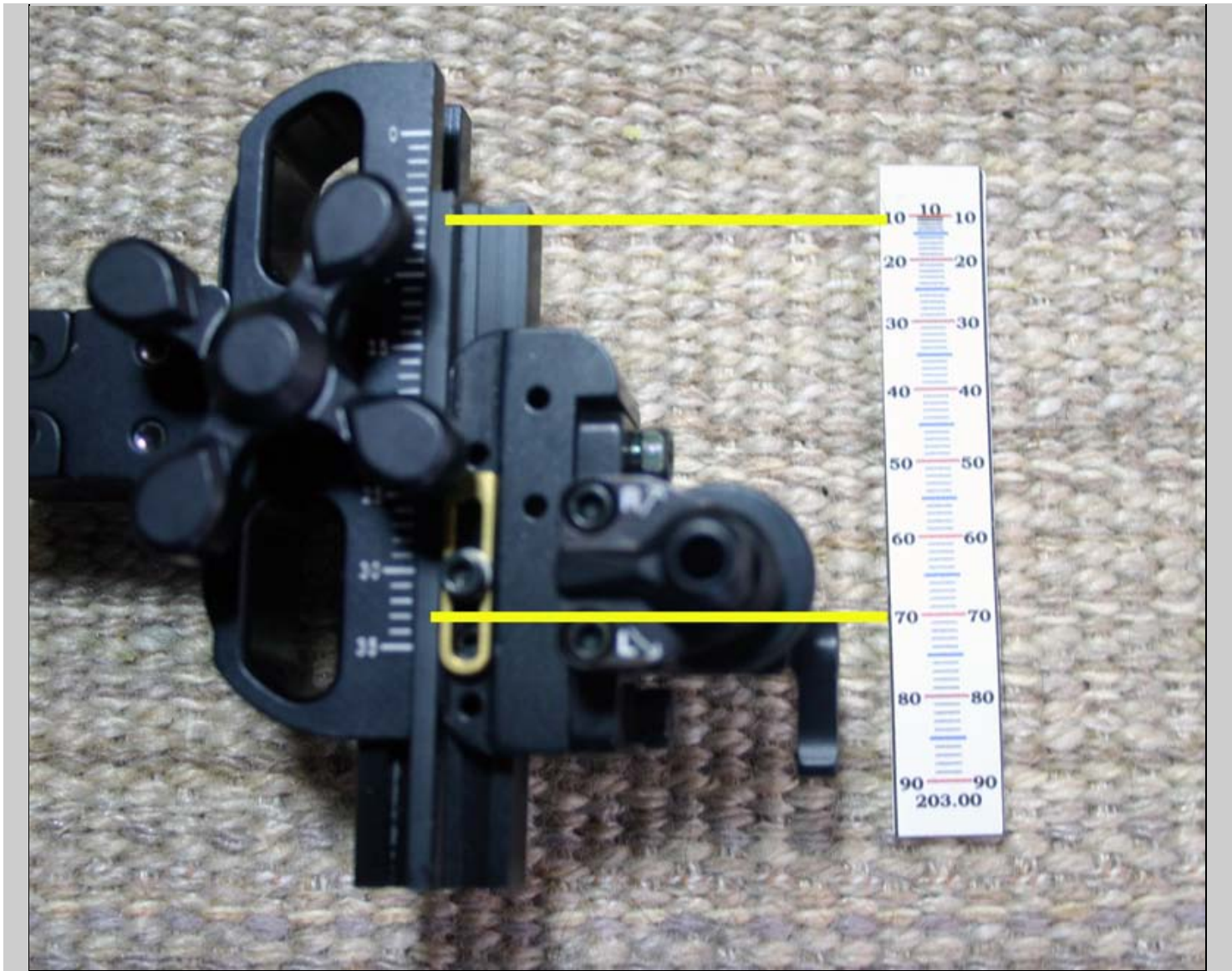
下はTek-Target adjustable Sightで、サイトバーはミニマムで軽量のため弓にセットしたときにローリングの発生を軽減してくれます。

気になるのはサイトバーとチャートの関連ですが、写真の右のチャート(Revenge DC 42# 437グレイン)という非常識?なセッティングのサイトチャートと重ね合わせても十分だと思います。

ただし、1440ラウンドの場合には90メートルはきつくなるのでそちらを指向される方にはおすすめしません。

とりあえず、私のリファレンスボウ・Revenge DC 42#でテストの予定です。

それぞれの詳細は[こちら](#)をご参照ください。



2014.9.6

くれぐれもご注意を (ドライファイア)

今年に入って、ドライファイアによるダメージ報告と修理依頼がたてつづけに4件発生しています。

うち2件はアローをつがえずエイミングしてシュートしてしまった事例。

もう2件は詳細は不明ですが、リリーサーを使用して素引き(アローをつがえずドロ잉)していて暴発のようです。

いずれにしても弓本体には良い影響を与えるわけもなく、くれぐれもご注意をという警告を先日もアップしましたが・・・

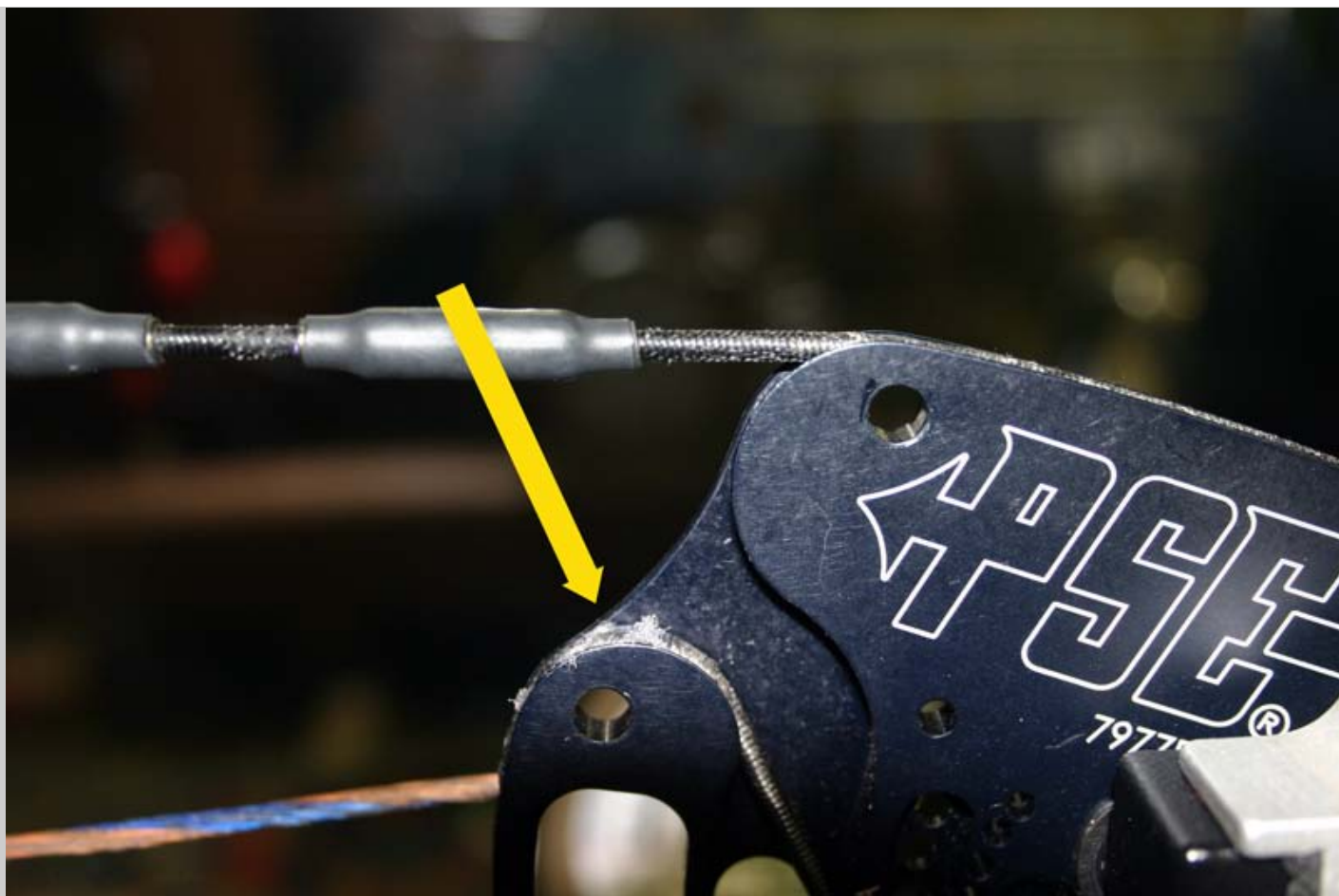


上はドライファイアの結果、カムがダメージを受けて曲がってしまった事例。

ドライファイアのタイミングにもよりますが、こういうダメージはアンカーリングを強く押し付けたドロウレングスが適正でなくふくらみリリースしているアーチャーに多いようです。

フルドロウ時にストリングに余計な負荷がかかっていなければ、ドライファイアをしてもトラックから外れることはほとんどありません。

ファームやドロウレングスの再検討が必要なケースかもしれません。



これもドライファイアを発生した事例ですが、ストリングがカムトラックから逸脱してしまいました。

幸いピークウェイトが32-3ポンドのセットなのでカムにはダメージを受けていませんでしたが50ポンドを超えるとどうなるかわからなかった事例です。

ストリングがカムのエッジにかぶっていて写真真矢印の部分のサービングがほつれていました。

今回は下カムでしたが、上下どちらかにこだわらず、ストリングとカムがオーバーラップする部分のダメージには注意が必要です。

以前、フルドロ中のセットのストリングが下カムから断裂を起こし、アローがストリングにつがえられたままだったためアローが上方に引きずられ折損したというケースがあります。

ストリングがノッキング位置で切れる分にはカムが回るだけで済むのですが、それ以外のところからの断裂は、アローがつがえられたままの状態が発生すると参事に至りかねません。

怪我やダメージがなかったのが幸いですが、それ以来カムとストリングの接点には注意を払うようにしています。

上の写真のケースでは、大丈夫な可能性もあったのですが、推定寿命である4,000射を超えたセットだったので、承諾をいただきストリング/ケーブルを新品の物に換装させていただきました。



念のため、ほつれが発生していたサービング部分を注意深く取り除き、確認しましたが今回はストリング原系にはダメージは及んでいませんでした。

であれば使い続けて大丈夫なのではと思われるかもしれませんが、サービングのほつれはどんどんと拡大してゆくのでいずれここから断裂する可能性は非常に大きいのです。

くどいようですが、くれぐれも[ご注意ください!!](#)

2014.8.30

☆シュートスルーモデルなのにケーブルガイドが・・・

<http://www.dartonarchery.com/vegas.html>

Bowman、DSTとシュートスルーモデルをテストしたことがあります。シューティングマシーンで射ると秀逸な弓も人間がシュートするとミス等によってケーブルが暴れることがあります。

少なくとも私のようにシュートの安定性・一貫性がないアーチャーには向いているとは言い難い部分があります。使い続けるなら、ケーブルガイドの2本シンメトリー使用しか方法はないなと思っていましたが、メーカーでも同じことを考えていたようですね。

ケーブルガイドはカムのリーンやハンドルライザーの歪を発生させるなどの弊害も大きいのですが、ケーブルのダンブ効果には捨てがたいものがあります。

シュートスルーでケーブル2本、シンメトリー配置ならデメリット部分はかなり軽減されるしダンブ効果も抜群のはず・・・

発表したDartonは以前テストで1本試しましたが、オーソドックスならなかなか良い出来栄でした。

ただ、入手ルートがほとんどなく、やっと入手したルートも翌年に無くなってしまい断念したメーカーです。

尚、よくできていてもシュートスルーモデルはハンティングの世界では人気が出ないと思います。
刃のついたブロードヘッドアローを2本のケーブルの間を通して矢をつがえなくてはならないため危険性が大きく、迅速性にも欠けるからです。

2014.8.15

ローコストドロ잉マシンへのテスト終了につき処分いたします。

色々やってみましたが、どちらのツールも発想は良いのですが使いにくい点が多く、少なくとも当ラボでの使用には不十分と考え放出処分することにしました。

LAS Pro Draw Board

完売いたしました。

こちらは仕上げもよくきれいな造りをしているのですが、ツールを確実に固定できるワークベンチやワークテーブルのようなものがが必要です。

そのうえで、前述のような欠点、ローアーピボットのモデルでは使いにくいという面を無視するなり対処できれば有効なツールだと思います。

HOYTのモデルに見受けられるセンターピボットのモデルやリカーブボウには最適かもしれません。

弓を水平セットのため、カムの傾き(リーン)などの調整はできませんのでラボとしてはリカーブボウのフルドロでのティラー調整やセンターピボットのCPのカムのシンクロ調整などへの用途をお勧めします。

尚、放出価格は21,000円(税込)で送料別途となります。

The Bow Draw Winch and Pro Stand Combo

こちらはスタンド付で、仰角をつけてチューニングできるというのが売りなのですが、仰角を固定する方法がない、スタンドのフレームが華奢でボルトの止め方も甘いのでウィンチの巻き上げ作業中にどうしても揺れが生じます。

弓のサポート部分がローリング方向に調整できないのでボウの垂直が出しにくいいためカムのリーン調整やサイトの垂直だしなどの用途には向きません。



今回のツールではピボットサポート部分固定されているためローリング方向に調整できません。



Hooter Shooterではローリング方向に調整・固定が可能なため垂直だしなどの用途に有効です。

スタンドと本体を止めているピボットボルトとロックピンで水平固定されるのですが遊びが大きくがたつきます。
したかなくロックピンをボルトに変更して固定して多少はましになったのですが、揺れが若干小さくなった程度です。
角型フレームが細いためどうしても揺れてしまいます。



こちらもワークベンチないしはワークテーブルにボルト固定して使ったほうが使いやすく安全な気がします。
ただ、外部に持ち出して、例えば射場で使用するような場合にはスタンドがあったほうが便利なのは確かです。
こちらは放出価格30,000円(税込)で送料別途となります。
尚、販売はスタンドと本体同時渡しに限りませう。

どちらもツールもテスト中についたすり傷やボルトの変更等により塗装のはがれがありますので予めご了承ください。
どちらのツールも安全性やトラブル発生の危険性を考慮しない間違えた使用方法、例えばアローを番えてドローイング等々は事故やダメージを引き起こす可能性が高く危険を伴います。
ご購入後のトラブル一切(メーカーでの設計ミス等は窓口対応いたします)に関しては責任を負いかねますのでご了承ください。

2014.7.27

ローコストドローイングマシーンの検証中・第2弾



ローコストドロイングツール・第2弾としてUSAのショップ、Lancaster Archery Supplyのオリジナル商品、"LAS Pro Draw Board"が入荷しました。

前回のHammerのものは弓が垂直保持でしたが今回のツールは水平保持で使用するもので、ウィンチのハンドルのクリアランスなどの関係からワークテーブルなどが必要となります。

これも実際に試してみて補正や使い方に工夫が必要です。

価格は27,000円(税込)を予定しています。

実際に使用してみるとフルドロに入るまで苦勞の連続でした。

私のラボでは部屋が狭くワークテーブルが置けないので今回は市販のワークベンチの上で使ったのですがテーブル幅が狭く落下しやすいうえ、固定の方法もなかったので慎重にドロを行いました。

また後述しますが、弓の保持にも不安定要素があります。

このツールはアルミアングルを使用したもので仕上げはとてもきれいで好感が持てます。



ウィンチ部分は、前回のHammerのものと同じ仕様のもので、ドロローはロープではなくベルトによるものです。

ウィンチのハンドルのクリアランスを考えなければ床にベタ置きできるのですが、この底部のウィンチでは無理でしょうね。



製品には、デジタルポンド秤も含まれているためお得感があります。

ポンド秤とDループにまわりついている黒いロープは付属品として添付されていたセフティロープでDループが切れたり外れた時を想定したフェイルセーフのようで安全性も考慮されています。



さて、一番大きな問題は弓の保持方法です。

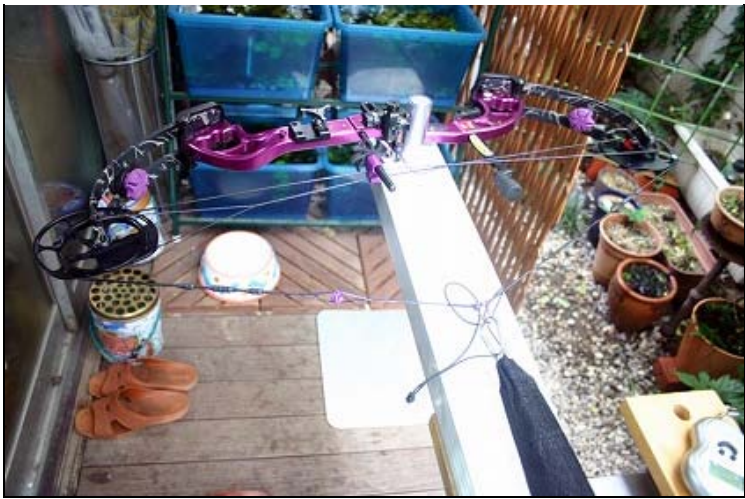
シンプルに太めのパイプが1本アングルに固定させており保護チューブでおおわれていてとても丁寧な作りです。

ただし1点支持のため多くのコンパウンドボウのようなロアーピボットのモデルではピボットがハンドルの中心でな

いためドロの開始時には弓の上部が引っ張られる形となり弓をまっすぐに保持できません。

ドロの開始時にはハンドルを手で押さえるなどするほうがよさそうです。

アングルにホールを開けてピンを打ち込んでハンドルを固定するという方法も考えられますがライザーへの負荷を考えないと危険が伴いそうです。



さて、写真ではわかりにくいのですが、左写真はフルドロ時のライザーの保持状態です

引きはじめよりは直立していますが、傾きが残っているのは仕方ありません。

リカーブボウのようなセンターピボットのモデルで使用するのには問題は起きないのですが・・・

さて、このツール丁寧にかつ親切に作られているのですが、フラットな天板が比較的大きいワークテーブルが必須です。

また、コンパウンドボウに使用する場合、特にロアーピボットのモデルではライザーの直立保持の工夫が必要な気がします。

このツール、コンパウンドボウよりもリカーブボウのほうが使いやすいと思われるます。リカーブボウで精度が高いリムバランスチューニングをするためにはかなり有効なツールだと思います。

2014.7.21

ローコストドロイングマシンの検証中です。



ラボとしては15年近く前から[Hooter Shooter](#)というシューティングマシン兼ドローイングツールを使用しています。これは非常によくできた商品なのですがサイズと輸送コスト等の問題もあり商品として取り扱ってきませんでした。しかし、最近海外のショップのカatalogでローコストのものを3点発見。その中で使いやすく安全そうなものを2点ピックアップして手配していましたが[1機種到着](#)。さっそく使用してみました。色々和不具合な点もありますがコストを考えるとこんなものといった印象があります。欠点を補い安全に使用するためにはちょっと工夫が必要です。さて、ドローイングマシンでできることは、カムのシンクロやリーン(傾き)のチェック、ファールアウェイレストのタイミング調整、リカーブボウでのフルドロー時ていらーの調整等々です。尚、販売価格は37,000円(税込)となります。



ボウホルダー

単なるアールが付いたフックなので、弓をロープやベルト等で固定する必要があります。

ウィンチ

Hooter Shooterや以前自作した無ドローイングマシーンのウィンチに比較してクリックなどやや荒っぽい作りですが強度的には十分な感じです。



実際に弓をホールドしてみました。
そのままでは弓が落下してしまうので、マジックベルトで固定しています。



こちらはドローフック。強度は問題なさそうです。



ウィンチはややクリックが粗目な印象ですが、細かいことを気にしなければ機能としては十分かと。思います。
ベルト部分は丈夫そうで好印象。

オプションのスタンドと本体の接続部分

左側のボルトで固定し手あるのですが、右のロックピンを外すとボルトを支点として仰角をつけれます。

ただし、仰角をつけても固定する方法がないのが残念。

またロックピンの精度の問題でドロ잉中にかたつきますし本体のバーが水平を維持できません。

仰角をつけるのを断念してロックピンを外しボルトに置き換えて固定してしまったほうが使いやすいかもしれません。



オプションのスタンド全景

設置場所によってはがたつきや揺れが発生するので工夫が必要です

このスタンドにはキャスターや高さ調整のパーツは付属していないので自分で準備が必要です。

確実に安定させたいのであれば、オプションのスタンドを使用せずにワークベンチなどへボルト固定したほうがよいかも知れません。

以上、簡単にご紹介しました、価格決定次第お知らせします。

尚、このツールはあくまでドロ잉マシンであってシューティングマシンではありません。くそ伏してリリーサー等を装着してシュートすることは可能かもしれませんが、安全性を考慮し決して決してお勧めしません。

また、使用時にアローを装着することは厳禁です。大変危険な行為なのでご注意ください。

続いてもう一つのツールもご紹介する予定ですがそちらは弓を水平にして使用するボードタイプです。

到着次第記事をアップします。

2014.7.20

ご注意ください。

このところ、空射ち(ドライファイヤー)等によるストリングのカムからの脱落やカムの変形などのトラブルが増加傾向にあります。

素引きが必要な際には必ず、Cant Fireのような安全な道具を使用してください。

また、当ラボが取り扱っているPSEのようにレットオフが大きい傾向のモデルでのフィンガー引きは厳禁です。

以下にトラブルの概要を列記します。

アローをつがえ忘れてシュートしてしまっ	論外ともいえる行為なのですが、素直にリリースしていればストリングの脱落やカムの変形は発生しにくいと思います。
---------------------	--

1	た。	それらが発生するのは後述しますがアンカー時に顔が強く接触するなどしてストリングにねじれ負荷がかかっているためだと思われます。
2	素引きをしていて間違えて発射してしまった。	1と同様のダメージが発生します。 シュート用のリリーサー(ロック機構がついていないもの)での素引きは厳禁です。
3	フィンガーで素引きして戻す時にストリングの脱落が発生。	フィンガードローでは引き戻す時にどうしてもストリングを捻じりやすくなります。 慎重にもどせる体力と注意力が備わっていなければ危険なので絶対におやめください。
4	ちゃんとアローもつがえてシュートしたのにストリングのカムトラックからの逸脱が発生した。	リムの剥離やハンドルのクラック等による変形がないのに発生したとすれば、アンカー時にストリングがよじれるほど顔に押し付けていたことが原因です。 ピープのポジションを確認しようとして顔を動かしやすいアーチャーに多く発生しています。 また、フィールドなどでのアップダウンや長距離の際の顔向けの変化などが原因でストリングにねじれ負荷がかかってしまうケースもあるようです。 アンカー時にストリングを顔に接触させることは一見安定につながりそうな気がすると思いますが同時にストリングに余計な力を加えて変形させそのまま発射するとストリングの逸脱は発生しやすくなるのでご注意ください。 極論を言えばストリングは顔に接触させないのが一番なのですが・・・ レットオフが大きい現在のコンパウンドボウではレットオフ70-75%では、フルドロ時のテンションは極端に小さくなっていますから接触等によりストリングが燃れやすく、しかもハイスピードになったため燃れた状態のままピークに向かうためトラックからの逸脱が大きくなります。
指導的立場の方へ		特に、リカーブボウ経験者がビギナーを指導しようとする際に「ストリングをしっかり顔につけて」とアドバイスすることが多いと思われますが大変に危険なことです。 アドバイスするとすれば「アンカーリングをしっかり固定、ストリングには余計な負荷をかけないように」が正解だと思うのですが・・・ 判り切ったことですがフルドロ時のテンションを列記しておきます。(レットオフ75%の場合) 30#→7.5#、40#→10#、50#→12.5#、60#→15#。



市販されているCant Fireは安全な道具で、素引きやためし引きの際には必須のアイテムです。

ただし、樹脂部が破損する可能性は皆無ではないので、人に向けたりアローをつがえての使用はおやめください。

2014.6.16

トラディショナルボウ(レプリカモデル)が楽しい



写真はついお客様の要望により先日入荷したBear Super Kodiak 60"です。

これは40年近く前、Bear社から発売されていた1ピースハンティングボウのレプリカモデルです。

以前、やはりレプリカのSupaer Magnum 48を知り合いと共同購入したりしましたが、Bear社のレプリカシリーズは、当ラボのルートでも購入可能になっています。

さて、数年前のBearのビンテージシリーズには高分子系の通常サービングのストリングが添付されていたのですが最近素材は同じでもフレミッシュ(編み込みタイプ)がついてきます。

この方がリムチップに優しいのと、ブレースハイトの調整幅に柔軟性が生まれてくるからだと思います。

この傾向は、ヨーロッパでビンテージスタイルのトラディショナルボウを積極的に作成・販売し始めているBearpaw社あたりでも同じようで、トラディショナルボウにはフレミッシュが定着しつつあるようです。

尚、新作のこれらのボウはリムチップが強化されているので高分子系のフレミッシュ(Dynaflight 97が多い)が添付されていることが多いようです。
ただし、ローコストのものはこの強化がされていないこともあるようでその場合にはダクロンB50のフレミッシュが無難と思われるので交換用ストリングを手配される場合には注意が必要です。

ところで、レプリカでない30-40年前のオリジナルボウには高分子系のストリングは使えません。
もし使用すると、間違いなくリムチップにストリングが食い込んで縦に割れるかリムチップが吹っ飛びます。

もし、オークションなどでビンテージオリジナルを入手した場合にはダクロンストリングの準備が必要です。
ただ、ストリング素材がダクロンでも日本国内で入手できるものは、上下ループのサービングが高分子系、所謂ファーストフライトやダイニーマ系等が使われていることが多いので注意が必要です。
これらのサービングは硬質なのでリムチップにやはりダメージを与えてしまいます。

さて、このモデルはレストがアームを持たないフェルトレストなのでターキーフェザー以外はシュートできません。
今回のオーダー主はターキーフェザー付のxx75アローを所有されているので問題なしですが・・・

テスト終了品放出します。

**Supra MAX ME RH 40# Black+Purple仕
様です。**

America's Best Bowstring 製Rubix Restおよ
びFether Peep 3/16インチがセットされてい
ます。

価格は65,000円で写真のスタビライザー・サ
イト・スコープは含まれておりません。

ドローレングスは25.1/2-30インチ対応です。

アフターの観点から店頭渡しを原則とさせて
いただきます。



2014.5.26